

第6回東村山駅西口公益施設運営検討会

日時:平成19年2月19日(月)第2委員会室 午後7時~

出席者:委員13名(欠席2名)ほか

議題

1) 会議の運営について

【事務局】資料確認

本日の会議は公開の検討会とする。

傍聴者1名

2) 先進類似施設の視察について

【事務局】再開発ビルの視察先候補を決定したい。

【委員】練馬区の再開発ビルを視察したい。

全員賛成で決定した。

3) 公益施設の検討

【事務局】

- ・ 施設整備目標は「人々が出会い、ふれあい、交流を深め、いきいきとした暮らしを支援する場」。基本的な考え方は「駅前利便性を生かした場」「多様性にこたえる場」「コミュニケーションが生まれる場」「健康を支援する場」の4つ。また、機能は、「健康増進機能」「市民交流機能」「リラクゼーション機能」の3つに集約した。
- ・ 本日配布した資料は、具体的な提供サービス案を提示したものである。
- ・ スポーツ施設と健康施設を特化したプログラム案を例示した。
- ・ 今後3、4回の会議の中で提供すべきサービスを方向付けたい。

【委員】コンベンションルームのイスは可動か、収納し広いフロアとして使えるのか。

可動で収納可能。会議室とコンベンションホールは防音設備もある。目的に合わせて、今後必要な機能があれば協議し決定していきたい。(事務局)

【委員】施設コンセプトの中で健康施設はコストが大、スポーツセンターはコストが小とあるが、コストの考え方とはどういうものか。

スポーツ機具はコストが小さく、健康保健機具はコストが大きいという考え方を傾向として示した。(事務局)

リラクゼーション機能としての有料のマッサージ機器等の設置は、維持費や老朽化で、コスト高になる。(委員)

【委員】スタジオCのマシントレーニング機能と生活習慣病対策機能案の違いは何か。

簡易のマシンで良いのか、精密機器が必要かの協議が必要。(事務局)

【委員】駅前施設とその他の施設では、開館時間や内容は違ってよい。西口公益施設は健康増進の機能を付加する。互いに補うもので、スポーツセンターとは異なってくる。

【委員】20年度から変わる健康診断制度について、説明願いたい。

平成20年からの基本健診の関係は、健康課と保険年金課が中心になり協議をしている。国が指針を出していないため、まだ詰めていないのが実状。健康課の基本健診を中心に、どう国保と融合していくか、健診後の保健指導のあり方が大きなポイント。現状、健康診断(現在約一万三千人対応しているが)後の指導が徹底されていない。個人での結果の生かし方が重要。フォローアップを国保との関係の中でどう整理するかが課題。平成20年を目途に、半年でつめなければならない状況である。(委員)

現在、基本健診は一万三千人が受診。対象者が三万人に増えることが国保の課題である。医療機関との関係や現在の保健指導体制、アウトソーシングの問題等が課題である。厚生労働省で3月中に出す指針に基づく必要がある。マシン、運動、栄養指導などの要素がある。いきいきプラザ、スポーツセンターや公民館との関係、子育て支援事業との整合など、今後行政の中でも区分けをする必要がある。保健指導についても現在検討中。また市民の方が多く利用できることが重要である。(委員)

【委員】資料の図には右枠にスポーツの範疇、左枠に健康の範疇、その融合として中央に円があるが、この融合を目指すということで良いか。

ひとつの方向性として考えている。ふさわしい融合のために様々なアイデアを出していただきたい。(事務局)

スポーツセンターや児童館と異なる存在価値が必要。既存施設との整合性の考えは。(委員)

それは情報や価値の広さと深さの違いと捉えられないか。例えば、西口公益施設では、健康や子育てなどが全て判るなど情報の広さを特徴とする。さらに(深さを)追求するには、それぞれの施設、スポーツセンター、健康センター、子育て専門施設などを利用する。公益施設を健康増進、市民交流情報のポータルサイト(玄関口)として捉えることで、単体利用の価値向上はもちろん、既存施設をさらに活性化するなど、相乗効果をあげる一つの方法では。(事務局)

それは必要情報をガイドンスしてもらえる場所という意味か。既存施設と競合するのではなく、きっかけ作りであったり、交通整理する機能を持たせることは良いこと。(委員)

既存施設の機能・役割を判ってないと、議論ができない。その中で整合性を持たせたり、効率的・合理的に公益施設の持つ機能・役割を考える必要がある。同じ機能を追及しても存在価値がない。同じ機能でも深さが違えば価値があると思う。(委員)

【委員】市内施設を踏まえたうえで協議したい。

関連施設の事業内容などは説明済み、施設的な観点から掘り下げて再度説明することは可能。(事務局)

【委員】スポーツセンターの利用者は少ないように思うが。また公民館でもダンスなどが可能と聞いたが、何が必要か、足りないのかを知らないと協議できない。健康という意味では身体を動かすだけでなく、話や音楽も大事である。今みんなが欲していること

を、考えていく必要がある。

スポーツセンターは、時間帯によっては利用が確かに少ないこともある。市民に身近に感じてもらえることがテーマだと思う。(委員)

【委員】民間事業の状況把握も必要。駅前利便性をフルに活用し、市民の皆さんに必要とされるものに集約されないといけない。

中央公民館は、平日の日中などいつも予約で満杯、空は常に夜間。どこも予約できない時には歴史館を利用している。駅に近いことは最大のメリット。運営次第で常に高い利用率が予想される。また、健康は市民の関心も高い。スポーツ関係はスポーツセンターで、西口公益施設では健康増進関係に重点を置いたほうが望ましいのでは。

【会長】今のテーマは、一日で決着する話ではない。今後も同テーマを掘り下げていきたい。

【委員】市民交流の切り口として高齢者と若い人の話す場が設定できないか。公園などで、一人でぼつんとしている高齢者がいるが、グループに入れられないような人に対し、何かきっかけができないか。公民館などがあればいいが、西口には特に何もないので是非考えたい。

関連として、今ふれあいセンターで様々な事業をしているが、高齢者の出席が少ない。これから団塊の世代が対象者となる中で、ボランティア関係の紹介ができないか。なかなか積極的に外へは出て行かないが、きっかけ作りとしてそういう窓口機能も良いのではないかと。(委員)

公益施設3階図面の中で、市民交流(サークル活動)支援機能とあるが、いまのご意見を含めて事業化できればと考える。(事務局)

【委員】交流は非常に重要。子育ての知恵は、高齢者は持っているだろうし、テーマ設定しないと行きにくいと思う。場所だけでもだめ、ソフトの部分が重要。子供と若い人との接点として例示の脳トレーニングは非常に有効だと思う。

【委員】子育て支援事業では、高齢者にノウハウを聞ける場の設定などの仕組みは作っているか。うまく当施設に織り込んでいけないか。

ただ広場を設けるだけでなく、やはり仕掛が必要。明日から、核家族化により相談相手のいない、また子育てに自信がないお母さんのための講座が開かれるが、非常に好評で予約がすぐに埋まった。求められていることを把握した上で仕掛けをする必要がある。健康づくりが話されているが、国では「健康日本21」という指針が出ている。市のほうでも昨年3月「健康ひがしむらやま21」という指針を出した。そのなかでは運動だけでなく、休養、食育、栄養の関係を取り入れながら、心身の健康というものを謳っている。特に今増えているのが心の病気であるが、ストレス発散などこの辺を駅前の利便性高い場所で考えると、ふらっと気軽に立ち寄れるような内容を盛り込めれば、そうしたニーズを救えると考えられる。子育て支援の関係もかなり出てくると考えるが、保健所跡地の利用であるとか社協との関係とかを相互に考えていくべきである。(委員)

【委員】市内の関連民間施設の状況も調べてみる必要がある。

【事務局】次回会議までに、市内施設視察の予定を確認させていただきたい。内容については事務局で整理する。

全体把握と機能分担等を考えるために関連市内公益施設のメイン機能が比較できる資料とマップを用意して欲しい。(委員)

了解した(事務局)

(まとめ)

- ・ 再開発ビル視察候補は練馬区上石神井のものとする。日程は今後調整する。健康増進施設については継続検討する。
 - ・ 平成 20 年からの基本健診の関係については、現在組織改定も含め、健康課と保険年金課が中心となって協議をしている。公益施設のスポーツ機能と健康保健機能の融合を考えるとときには、この動きを踏まえ検討する必要がある。
 - ・ 議論を深めるために市内のスポーツ施設と健康保健施設を視察する。次回会議の前にいきいきプラザを視察する。詳細は今後調整する。
 - ・ 市民交流(サークル活動)支援機能として、子育て世代および高齢者対象のものを検討する。
 - ・ 本日の協議内容の提供すべきサービスについては、今後、継続検討とする。
 - ・ 市バスを利用した先進市類似施設視察については、4月19日(木)とする。
- 次回 3月26日(月)午後7時～ いきいきプラザ健康施設視察
午後7時30分～ 協議 第2委員会室にて